地元児童に稲刈り体験を指導

箕面市農経連



稲垣会長の指導を受けながら稲刈りに取り組む児童

箕面市の農業者で構成される箕面市農業経営者連絡協議会は10月14日、箕面市立西小学校の５年生を対象に、稲垣恵一同市農業委員会会長の水田で稲刈り体験を行った。児童は６月に田植えを体験しており、自ら植えた稲の収穫に取り組んだ。

作業に先立ち、稲垣会長が鎌を使った稲の刈り方や刈り取った稲の束ね方などを指導。作業中も農家が児童のもとを回り、刈り方などを丁寧に教えた。児童は当初、恐る恐る鎌を扱っていたが、次第に慣れた手つきで稲を刈り取り、収穫を楽しんだ。

体験後には、児童から「収穫できないような大変な年はあったのか」「この田んぼは何年前から続いているのか」など、農業の素朴な質問が寄せられ、農家が一つずつ回答した。

稲垣会長は、「この取り組みは20年以上続いており、体験した児童や保護者が声をかけてくれたり、市内の農地に関心を持ってくれている。これからも続けていきたい」と話す。

収穫した米30㌔は11月中に同小学校に届けられ、児童らが調理実習でご飯を炊いてお味噌汁と一緒に食べる予定。（沼田）

農林水産祭「女性の活躍」部門 内閣総理大臣賞を受賞

富田林市・乾　裕佳氏



令和８年度(第65回)農林水産祭の「女性の活躍」部門で、富田林市の乾裕佳氏が、内閣総理大臣賞に選ばれた。

乾氏は平成８年に就農し、26年に乾農園の４代目として継承。作業のマニュアル化やＪＧＡＰの取得、営農管理アプリの導入などを通じて、作業の効率化や経営の安定化を進めてきた。

地域農業の振興にも積極的に取り組み、「富田林の海老芋」の地理的表示(ＧＩ)登録に尽力したほか、地元の若手農業者らと連携して「富田林市きらめき農業塾」で次代の担い手育成に取り組むなど多岐にわたって貢献している。

農林水産祭は、農水省と日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施。国民の農林水産業と食に対する認識を深め、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるのが目的。

クラウドファンディング推進へ

府が交流型農業支援に向け講座

大阪府は、農業者と消費者の交流を通じて販売額の増加を図る「交流型農業」の推進に向け、府内農業者を対象としたクラウドファンディング活用講座を２日にわたって開催。計50人が出席した。

９月16日は「基礎・企画編」として、株式会社パーシヴァルファウンダーの川辺友之代表が講師を務め、クラウドファンディングの仕組みや企画立案の考え方など、活用に向けた基礎的な内容を解説した。自身のクラウドファンディングの経験やこれまでサポートした事例を交えながら、実施までの流れや成功のポイントを紹介するとともに、後半では「多くの人に支援してもらうには」という視点から、効果的なＰＲの重要性や実際の支援者の傾向について説明があった。

９月24日は「広報・ＰＲ編」として、株式会社ＰＲＯＰＯの中尾豊氏が、クラウドファンディングの成功率向上に向けたノウハウや、プロジェクトの告知・拡散のポイント等を説明。プロジェクトを応援してくれる人を増やすためには、平時から農園の魅力を発信し続けることが重要であるとして、実際の農園の事例に触れながら、日ごろの農作業や出来事をＳＮＳ投稿につなげるための考え方を紹介した。

研修の終わりには、①誰に向けて、②農園・商品のどのような魅力を、③どのような行動につなげるためのＳＮＳアカウントとするか、という発信の方向性を整理する実践演習を実施。参加者は自らの農園や商品に置き換えながら、今後の情報発信について具体的に検討した。

府は今後、８月から農業者から募集をしていた交流型農業実践プランについて審査・選定し、クラウドファンディングの実施を支援する予定。プロジェクトの企画や情報発信などをサポートし、交流型農業の実践を後押しする。（沼田）



日々の農作業を魅力的な発信に変える考え方を説明（９月24日）